広域連携で魅力を発信

三島池（米原市）

天秤櫓で始まる特別展のイメージ図（彦根市）

永源寺（東近江市）

彦根市は、この夏から秋にかけて、恒例イベントの内容の充実に加え、「戦国・戦（いくさ）」をテーマにして彦根の観光をＰＲしています。

新たな取り組みでは、彦根城天秤櫓（てんびんやぐら）で開催予定の特別展「甲冑（かっちゅう）でみる武将（おとこ）たちの関ヶ原」や、夢京橋あかり館での企画展「MITSUNARI 11（三成イレブン）」、開国記念館での企画展「近江の戦国・彦根の戦国」などです。各イベントで多くの人に彦根の魅力をお知らせしていきますが、観光が地域に与える経済効果をさらに高めるためには、宿泊客を増やすことが有効な方法の一つです。

そのため、彦根市が周辺市町に呼びかけ「びわ湖・近江路観光圏協議会」を組織し、広域での観光振興に取り組んでいます。今回は、「びわ湖・近江路観光圏」を紹介します。

問い合わせ先　㊐観光振興課☎30-6120、FAX22-1398

日帰りから宿泊へ ～滞在型観光～

「びわ湖・近江路観光圏」は平成20年8月に、彦根市長が呼びかけ人となり、当時の湖北・湖東地域の5市13町の行政と観光協会、旅行事業者などを構成員として発足しました。その後、市町合併などを経て、現在は4市6町（※左の地図参照）で形成しています。

現在「びわ湖・近江路観光圏」は、観光メニューの充実や、宿泊の魅力向上、観光案内体制の整備などを推進しています。

また、宿泊事業者（ホテルや旅館など）が主体的に「宿泊部会」を組織し、これまで交流の少なかった他市町の宿泊事業者と連携した事業を展開しています。

※　彦根市・長浜市・東近江市・米原市・日野町・竜王町・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町

▲熱心な議論が行われる宿泊部会の会議の様子

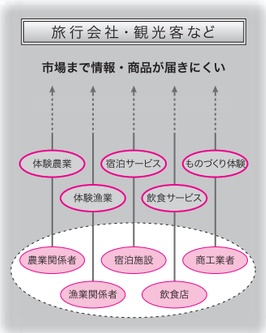
圏域の観光情報の集約拠点 近江屋ツアーセンター

４市６町の行政区域を越えてさまざまな団体や組織が協調して、魅力的な広域観光資源の存在をＰＲするためには、「観光地域づくりプラットフォーム」と言われる拠点が必要不可欠です。「観光地域づくりプラットフォーム」は、左図のとおり、観光情報を集約して商品化し、旅行会社や観光客のニーズに応じて情報を提供し、商品を販売するサービス拠点です。びわ湖・近江路観光圏でのサービス拠点が近江屋ツアーセンターです。

びわ湖・近江路観光圏のより一層の発展のためには、同センターの運営の安定化と機能強化が必要であり、圏域内の市町では、同センターの運営を支援しています。

今後、近江屋ツアーセンターは、ＪＲ米原駅周辺の整備計画に合わせて、ＪＲ米原駅への移転を計画しています。

（　これまで　）

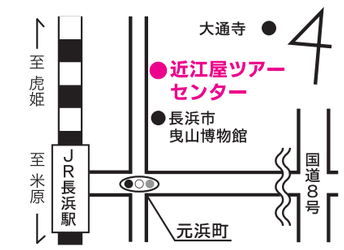


個々の関係者が個別に情報発信・商品販売を行う

（　観光地域づくりプラットフォーム　）

「観光地域づくりプラットフォーム」がワンストップ窓口となって情報発信・商品販売を行う

▲観光庁のホームページから引用



●近江屋ツアーセンター
長浜市元浜町☎0749-65-0370番、FAX0749-65-0380番、びわ湖・近江路観光圏ホームページ：http://ohmiji.jp/

圏域が一体となった活動が地域を元気にする

近江屋ツアーセンター所長
田渕（たぶち） 正人（まさと）さん

近江屋ツアーセンターは、「お客様と地域をつなぐ」「地域をまとめる」ことが役割であると考えています。

「お客様と地域をつなぐ」ために、地域に眠っている資源を活用して、圏域を訪れるお客様のニーズ（癒し、リフレッシュなど）や価値観にあった提案を目指しています。

また「地域をまとめる」ために、圏域の市町が連携することや、事業者・生産者・地域住民が一体となって観光の事業展開に取り組むことが重要です。

テーマがある観光を充実させることが大切

現在では、観光の形態やニーズが変化してきて、市町単位の取り組みでは対応できなくなっているところもあります。例えば、彦根城も見たいし、小谷城（長浜市）も見たいという人がいても、パンフレットは市町単位でそれぞれ作成しています。

今後は、市町域にとらわれず、広域に連携して、「テーマ（ストーリー）がある観光」の提案を充実させていくことが大切です。

多様な魅力を組み合わせてファンやリピーターづくりを

彦根市にはいいものがいっぱいあります。史跡、自然、文化、伝統産業などの多様な魅力を組み合わせて、お客様に楽しんでもらいましょう。

彦根市や圏域に「行ってみたい」「再び来たい」というファンやリピーターを作る魅力づくりが大切です。

圏域内の市町や、事業者・生産者・地域住民を巻き込んだ活動で、ファンやリピーターなどの交流人口が増加するという「小さな成功事例」を積み重ねることで、まちが元気になります。まちが元気になれば、住んでいる人に誇りや愛着が生まれるでしょう。